

認知症にやさしい地域になるために

もし、自分の身近な人が認知症になったら・・・

平成17年、日本人の平均寿命は男性78・56歳、女性85・52歳となり、本格的な高齢社会に突入しています。それに伴い、認知症の高齢者も年々増加し、およそ85歳以上の高齢者の4人に1人が認知症だと言われています。

岩美町は県と協働で、認知症にやさしい地域づくり懇話会を開催しています。この懇話会は、地域住民及び関係者が認知症高齢者を見守ることにより、認知症高齢者が安心して日々を過ごすことができるよう、地域に必要な支援体制について検討していくためのものです。昨年度より、町内の医療機関、介護職、一般住民の代表の方にも参加していただき検討を重ねています。

今月号では、認知症とはどのような病気なのか簡単にお伝えします。

認知症の主な種類

アルツハイマー病

- ・脳が特有の変化を伴って萎縮する病気です。
- ・放っておくと次第に進行していく病気ですが、内服によって進行を遅らせることができる場合もあります。

脳血管障害による認知症

- ・脳の動脈硬化が進み、脳梗塞や脳出血が起こることで認知機能に障害が起こります。
- ・目立つ自覚症状がない小さな脳梗塞が多発することでも起こります。

- ・脳血管障害の原因となる高血圧・高脂血症・糖尿病をしつかり治療し、血液が固まるのを防ぐ薬や脳の血流を促す薬で、進行をくい止めることもできます。

その他にも認知症は様々な病気・原因で発症することがあります。

認知症の症状

認知症が疑われる場合は、次のような日常生活の変化が見られます。

- ・もの忘れの自覚に乏しいことが多い（早期の段階では自覚されている方もあります。）
- ・同じことを何度も言ったり、聞いたりする
- ・食事の内容だけでなく、食事をしたという事実まで忘れる
- ・置き忘れや、しまい忘れが目立つ
- ・水道の蛇口やガスの閉め忘れが目立つ
- ・ものの名前が出てこなくなったり
- ・計算の間違いが多くなった
- ・薬の管理ができなくなった
- ・慣れているところで、道に迷った
- ・時間や日付が不確かになった
- ・日課をしなくなった
- ・以前はあった関心や興味が失われた

- ・テレビドラマの内容が理解できない
- ・以前よりだらしなくなった
- ・以前よりひどく疑い深くなった
- ・ささいなことで怒りっぽくなった

以上のような変化があっても、必ず認知症というわけではありませんが、気になることがあれば、早めに、かかりつけ医・精神科・神経内科などを受診することが大切です。

原因によっては、進行をゆっくりにしたり、治療できる場合もあります。



問い合わせ先

福祉保健課

☎73-1333